

日程第3 一般質問

○議長(中上良隆君) 日程第3 一般質問 を行います。

今回の一般質問の通告者は20人であります。

質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。

順番1、1番 岡君。

〔1番(岡 弘悟君) 登壇〕

○1番(岡 弘悟君) おはようございます。早速ではございますが、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

幼保一元化5カ年計画についてなんですけども、1番、公設民営とのことですが、「民」については決定されたのでしょうか。

2番、現在、保護者、関係者への説明会が行われていますが、どのような内容を保護者、関係者にお伝えしているのか。6月4日に開かれた議員全員協議会の席で「保護者、関係者の方々の要望も取り入れながら進めていく」とのことでしたが、どのような要望が出され、どのように取り入れ、進めておられるのか、具体例をお聞かせください。

3番、市内すべての保育園と幼稚園を一元化することにより、利用者の選択肢、幼保一元か、既存の保育園・幼稚園の分割型(二分型)がなくなってしまうことについて、どのように考えておられるのか。

4番、幼保一元化5カ年計画において「地域における乳幼児施設のバランスを図る」とありますが、この計画により、地域格差がより広がるように思われます。本当に格差なくバランスのとれた施設配分が行われているのか。その中で、現在、計画で示されている施設の予定地はどのような基準で決定されたのかお聞かせください。

5番、子どもたちのため、本当に良い施設・環境をつくり上げる計画が、第一に少子化、財政問題を中心として計画を進めているように思われますが、それについてはいかがでしょうか。

明確な答弁、よろしくお願ひいたします。

○議長(中上良隆君) 1番 岡君の一般質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長(上田敬二君) 登壇〕

○健康福祉部長(上田敬二君) 岡議員のご質問にお答えいたします。

議員おただしの指定管理者の指定につきましては、現在まだ決定はしておりません。指定管理者の決定までのスケジュールを参考までに申し上げますと、平成19年11月1日から11月30日までを募集期間とし、その後、平成20年1月上旬から2月上旬に指定管理者選定委員会による第一次及び二次審査を行い、指定管理者を内定したいと考えております。そして、平成20年3月議会定例会に指定議案を上程し、可決されれば指定管理者の決定となります。

次に、保護者、関係者に説明会でどのような内容をお伝えし、また保護者、関係者の要望を取り入れながら進めていくことについて、どのような要望が出され、どのように取り入れて進めていくかとおただしですが、高野口こども園の説明会では、今ある四つの保育園と一つの幼稚園を統合し、新設のこども園を建設して、運営は民間法人に委託することにより、特色ある教育・保育を提供していく旨の説明をさせていただきました。

保護者の方々からは「公設公営にできないか」「保護者の経費負担増にならないように」

「保育内容はどうか」また「保育料が変わらないか」といった意見が出されました。市としましては、法人の選定及び法人の決定後に、制服や保育用品など経費負担を伴うものについては、保護者の方々の意見を反映できるように法人との意見調整を進めてまいります。

また、指定管理者による保育内容については、保育所保育指針、幼稚園教育要領に沿って実施いたしますので、公立でも民間でも基本的な保育内容に差はございません。保育料については市の条例を適用します。具体的には、短時間児は公立幼稚園の保育料、長時間児は公立保育所の保育料となります。

また、保護者、関係者の皆さま方からのご要望につきましては、十分な検討を加え、できる限り計画の中に反映してまいりたいと考えております。

次に、市内すべての保育園と幼稚園を一元化することにより、利用者の選択肢がなくなってしまうことについての考え方ですが、現状では、親の就労等により保育に欠ける家庭は保育園を選択することになります。保育に欠けない家庭は幼稚園を選択しています。同じ地域、同じ年齢の児童が、家庭の状況により異なった保育、教育を受けることとなります。幼保一元化は同じ施設を利用する中で、それぞれの小学校に就学する前から仲間づくりや親子の交流が図れるとともに、就学前からの小学校との連携も容易になり、スムーズに就学につなげることができます。

次に、乳幼児施設のバランスのとれた配置が行われているか、また、施設の予定地はどのような基準で決定されたのかについてであります。施設配置については、現在ある幼稚園・保育園を基本に、園児数や国立社会保障人口問題研究所発表の将来人口推計を考慮しながら、施設規模が大きい保育園を核とし

て、できるだけ既存施設の利活用を図りながら集約する方法を取り入れ、中学校区を一つの単位としてこども園の設置を考えました。

最後に、少子化、財政問題を中心に計画を進めているとおたがいますが、市としましては将来の橋本市を担う人づくりをめざしており、在宅で育児をされている保護者の方へも子育て支援を行い、安心して子どもを育てる環境づくりのため、認定こども園を設置していく考えでありますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）1番 岡君、再質問ございますか。

1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

1番に関しては決まってないということなんですけども、そこで気になるのが、2番の保護者、関係者の説明会で子どもを預けられる親御さんが、預かる側の顔が見えない状態で説明会を聞いておられるというところが、僕は非常に気になるんです。今のお話では、細かいことはまだ決められないんですけども、大まかなことはその説明会で説明されているとのことなんですけども、結局、これから子どもさんを預かって、子どもさんと一番中心に保育園、幼稚園、幼保一元の施設の中で触れ合っていくというのは、やはり民で働いてはる方になると思うんですけども、その方の顔が見えない状態で説明会を行って、そしてこういった形になるというのをお聞きになった保護者の方々が、非常に不安に思っている方がたくさんいらっしゃるんです。

その中で、もう一つ気になるのは、これから保護者説明会を行って行って、いろんな意見を取り入れていくというお話なんですけども、それにしても全く時間がなさ過ぎるんです。高野口のお話、今出ましたけども、来年にはもうその施設に関する、新しくつくって

いくということをもうしていかなければならない状況で、今から内容をつくり上げていくということが本当に可能なかどうか。やはりその辺も疑問に思いますし、あと先ほど、ちょっと揚げ足になってしまうんですけど、公と民で指針に従ってやるということなので、保育の基本的な内容の差はなしというようなお話、答弁でいただきましたけども、最初の計画では、民は民の特色を生かして、その部分があるから公設民営にしていって民にお任せすると、計画書のほうではなっているのにもかかわらず、そんなに差はないというふうに言われてしまいますと、それでは公設民営だけにこだわらなくても、公設公営という形にして進めていく部分もあっていいんじゃないかなと思います。

それと5カ年計画の二次計画においては、公設民営だけではなくて公設公営も視野に入れるとのことですが、それも一次計画において、なぜ公設民営だけではなくて公設公営をまず考えていけないのかなという疑問と、あと3番目なんですけども、少し僕ちょっとこれ、あまり理解ができなかったんですけども、結局、今の状態で進めていきますと、一次計画ではほとんどの、ほとんどというか保育園と幼稚園を、一次計画においては幼保一元化の施設に全部変えてしまうと。そういう計画になってますよね。一次計画においてはね。二次計画においては明記してないですけども、資料によりますと、ほとんど幼保一元化施設にかえてしまうようなお話になってますけども、僕が言いたいのは、連携がとれるとかとれないとかそういった話ではなくて、利用者の方々、保護者の方々が幼保一元化、僕は幼保一元化を否定しているのではないですよ、幼保一元化施設というものに子どもさんを預けてこれからいきたいという親御さんもいれば、保育園と幼稚園の分かれた二元型

の、現在の保育に入れたいという親御さんもいらっしゃるということです。その選択肢を全くこのままではなくなってしまいますよね。しかも、公設公営、公設民営、二つつくっていくのであれば公と民を選べるというのもあるんですけども、一次計画ではもう完全に民営化に任せるといような話にもなってますので、その辺の選択肢もなくなってしまいうのは、非常にちょっと気になるんです。

実際、平成15年の『市政』9月号で、前・村市長が幼保一元化施設についてちょっと言及してるんですけども、その中でも「現行の保育園や幼稚園、そして第3の選択肢として幼保一元化施設も加えた施設の再配置について検討を進める」と。つまりこの時点で、第三の選択肢、つまり利用者の方々が、これからいろんなニーズに合わせていく、利用者の方々のニーズに合わせていく上で、第三の選択肢として幼保一元化も考えていこう。もちろんそれは少子化問題もあり、これから必要になってくる施設だからやっっていこうということで、もともとの計画はそれで始まったはずなんです。それがいつの間にか、なぜすべてを幼保一元化にしていく必要があるのか。それはもちろん必要があるのであれば、またそのお答、聞かせていただきたいんですけども、もちろん少子化問題、財政問題、5番でちょっと僕、質問させてもらったことで、話飛んでしまうので後で話しますけども、それはもう非常に気になることです。

○議長（中上良隆君）よろしいですか。

再質問に対する答弁を求めます。

幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）岡議員の質問にお答えいたします。

まず、保護者の方々は、保育してもらえる保育士さんの顔が見えないと不安に思っているという質問であろうかと思えます。それに

つきましては、平成20年の、予定では3月議会で指定管理者の議案を上程いたしまして、可決されますと法人が決定されます。法人が決定した段階でいろんな説明会とか、あるいは平成20年の11月には保護者も決まります。入園申し込みを取りまして保護者が決まります。保護者が決まりますと、保護者の皆さんともいろんな引き継ぎについての説明会、それからその前に、法人が決まりますと市教育委員会、それから管理者、あるいは保護者の皆さんも交えた形のカリキュラムと申しますか、そんな調整等々をしながら、11月に保護者が決まりますので、入園申込書、申し込みを行いますと保護者が決まりますので、決まりました時点でまた詳しい説明会等、それはもう十分不安のないようにもっていきたいと、こういうふうに考えております。

それから、保育所の保育指針、幼稚園の教育要領ということで、これに基づいてするからそんなに差はないという説明でありましたけれども、そしたら別にそんなに差ないんですら官でもいいんじゃないかというふうな再質問かと思うんですけども、一定、基本的なところといいますか、絶対その橋本市の教育あるいは保育内容について、この線だけはやっぱり守ってほしいという部分がございます。それにつきましてはカリキュラム等々の事前調整をして、基本的なところは指導を入れるようにしております。

ところが、やはり実際の運営になってきますと、ある程度といいますか、民間法人のやっぱり理念というのもございますし、そこでの特徴、これはやっぱり出してもらわないと民にした意味がございませんので、その部分につきましては大いに民間のいいところを發揮してもらいたいと、こういうふうに考えております。

それから、一次計画では公設民営という形

でなっておるんですけども、二次計画につきましては、一次計画終了後二次計画を立てるということになっておりまして、すべてが子ども園になるのか、幼稚園も残すのか、そこらはちょっとまだ、これから先の段階でありますので、子どもの推移等あるいは一次計画の状況も見ながら、二次計画については、またいろんなご意見も反映できるようにつくっていきたいと、こういうふうに考えております。

そういうことでよろしく願いいたします。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）一次計画を進めていって、その状況を見て二次計画での計画の見直しと。もちろんやってみないとわからないことはたくさん、やってみてはじめて出てくる問題というのはたくさんあると思います。

ただ、少し気になるのが、少しとか本当に気になるんです。気になるのは、先ほどもお話をさせてもらったんですけども、・村前市長がお話に触れたことは、恐らくムーミン谷子ども園のことやと思うんです。もちろんそのときには、橋本市の今の現在の二元型が、こういった形で幼保一元化に進んでいくといったような計画はもろんなかったと思うんです。ただ、ムーミン谷が平成17年4月に開園いたしまして、その状況を見て橋本市、これは僕の憶測でしかないんですけども、その状況を見て、橋本市も全体的にそういった見直しが必要じゃないのかなということで、この計画が始まったんだと思うんです。

その間、約2年間あるんですよ。もう今やったら2年半ですか。その2年半の間に、まったく地域とのコミュニケーションもとれてないし、地域とのそういったお話も出てない。その2年間の間というのは、地域のお子さんが、ちょうど生まれたばかりのお子さんであれば、これからそういった施設に預けられる

親御さんがほとんどですよ。その親御さんに、言えば最初に説明できる時間が2年間あったと思うんです。その間、もちろんされていないとは言いません。されてるのかもしれませんが、十分な説明がされていない。

そういった中で一次計画が、二次計画は一次計画のもとを案にして二次計画は練っていきますと。二次計画はさらにいいものができると思います。もちろん一次計画も2年間の間にいろいろな、まあ2年間とは言いません。4年間かもしれないし、その間にいろんな計画がもちろん当局の中で話されて、進めていращやるのはわかるんですけども、でもその中で、二次計画では住民の声が反映されるのに、一次計画では住民の声が反映される時間が全くないんですよ。全くといったら失礼ですけど、もうほとんどない。時間は区切ってますよね。開園予定は区切ってます。二次計画はその後問題が噴出してから約5年間、5年以上の期間をもって話を進めていける時間があるんですけども、そういった場合、一次計画はやっぱり実験段階でこういった話を進めるべきでは僕はないと思うんです。やはりこの計画というのは、もう何年も前から恐らく進められていることだとは思いますが、その間に利用者の方々、関係者の方々にお話をお伺いする時間がたくさんあったと思うんです。

さらに思いますと、幼保一元化計画という前に、これ、子どもの数が減っていくという統計をどんどんどんどんとって、この計画を進めていращるとは思うんですけども、何年も前から少子化問題が問題になってきて、少子化問題がまあまあこれからの日本の課題ということになってきて、今、幼保一元化でこういった形で進めていこうという話なんですけど、その前に、保育園・幼稚園の合併といった形に進まれなかったんですか。この何

年かの中に。今も橋本市内の幼稚園で園児の数が減ってきて、運営が成り立たなくなってきたんやというお話をよく聞きますけども、それは幼稚園・保育園、その施設が合併して対応できる問題ではないんですか。まずそこから始めていって、幼保一元の考えに最終的になっていくという段階を踏めたはずだと思うんです。それをいきなり幼保一元という問題にくくってしまって、幼保一元するから合併するんやではなくて、最初に幼稚園・保育園なりを合併していくという、もちろん高野口の場合は、最初は合併という形で話は進められているというのはお聞きしてるんですけど、ほかの地域においてもそういったお話はなかったんですかね。その辺もちょっと気になるので、お聞かせ願えれば。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）今、岡議員おっしゃってる、過去にそういう話がなかったのかという、そういう取り組みですね、今、話なんですけれども、園児数が減ってきているという中で、隅田地域で一応検討されたのが、山内幼稚園、隅田幼稚園、それから兵庫幼稚園、この3園の統合というのが検討されてございます。それにつきましては、地元へ説明にも行ったわけですけども、実現できなかったという経過もございまして、そういう中で幼保一元の話も出てきまして、あるいはまた認定こども園法等も出てきた中で、そういう過去のそれも踏まえて、これを機会に幼保一元化するという考え方に至ったわけでございます。よろしくお願いたします。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。指摘してくださいね、答弁もれ。

○1番（岡 弘悟君）答弁もれがあるんです。それは、はい。2年半の時間の間の説明会がなかったという話を。もう一度言いたし

か。

最後の質問はそうなんですけど、ムーミン谷ができてから一次計画が上がったのか、僕はその辺の期間はわかりませんが、その一次計画が立ち上がったからの時間の間に、保護者、関係者等の説明等を踏まえたことができたんじゃないかと。それが今になって、今になってと言うと失礼ですけど、6月になって急に打ち出された。そうなるのと、その計画というのは5月にできたんですか。いや、違いますよね。その前からできてるわけですよね。その前からできてるのになぜ、その間何をしてたんですかというお話しなんです。それについての答弁、よろしくお願いします。

○議長（中上良隆君）答弁を求めます。

幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）幼保一元化計画は一応担当課のほうでいろいろ練りまして、担当課のほうで作成いたしました。市の内部の調整のもと、でき上がっております。したがって、そういう発表の仕方といえますか、地元のご父兄の方等々の説明については、まだしていません。まず計画をもって、それで市民の皆さんの中へおろしていくという、こういう手法をとってございます。よろしくお願いしますと思います。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）すいません。それが問題かと僕は言ってるんです。上から下で、上で決まったから下の方にこう決まったから納得してくださいというのは、いいものをつくり上げていくというのではなくて、できたからこれでやってくださいという、少し言葉は悪いですけど、少し押しつけになってしまうんです。それが今、地域の方々が一番問題視されているところなんです。

幼保一元化に関して反対されている、僕が

聞くお話ですよ、一部のお話なので申しわけないんですけど、僕が聞くのは、やっぱりよく聞くのは、幼保一元化というものは、やはり利用者の方々もわからない方がたくさんいらっしゃる。で、市の説明も説明不足やということでおしかりも受けます。その中で一番おしかりを受けるのは、僕もそれが一番おかしいと思うんですけども、決まったことを、こうなったからこうしてというように話が一番悪いと。

それで僕が個人的に思うのは、先ほどから聞いたんですけど、その2年間は、2年間というか計画が決まってからはそういった形がとれてないと。してなかったということなんですけども、やはり、それはこれからの5カ年、今後の5カ年計画においてはしていくけど、一次計画においてはしてなかったんですよ。で、計画が決定してから決めるのではなくて、やはり、その計画が持ち上がった段階で、ある程度の骨太の部分は僕は市が決めていかなければいけないと思います。指針としては。ただ、その骨の部分に肉をつけていくのは、やはり市だけではなくて利用者の方々、専門家の方々、関係者の方々、いろんな人の意見が、その部分の肉になっていかなければいけないと思うんです。その肉の部分もすべて、すべてとは言いませんけど、ほとんどすべて市のほうで決めてしまって、後、付け足しのような要望を聞き入れたから、それが要望を聞き入れましたという形であるのであれば、それは全く要望を取り入れた形にならないと思うんです。

もちろん、大きな問題ではなくて細かなことはこれからの保護者、関係者等の話し合いで決めていけると思います。でも、本当に重要なことというのは大変時間がかかると思うんです。その本当に大変時間がかかることを省くために市で決めてしまったというのは

もう否めないんですよ。本当に重要な部分を決めるというのは、もちろん反対の方もいらっしゃるし、大変な労力が必要やと思います。にしても、今のこの計画では、その本当に一番大事な部分というのが、どうしてもやっぱり抜けている。その手法に対して抜けているとしか僕は取れないんですよ。

で、おっしゃられるみたいに、二次計画ではいろんな問題を取り入れて解決して行って、さらに進めていくというお話をされてるんですけども、結局、いろんな問題噴出しますよ、これ。一次計画の人は必ず不平不満持ちますよ。最初にこんなお話ないんですよ。やっちゃってから問題を解決する。

子どもたちというのは、保育園・幼稚園を過ごす時期というのは、僕たちもそうですけども一生に1回しかないんですよ。一個人で考えると、ある年代の方がそこに入って、これからもどんどん入って、幼稚園の園児たちは続いていきますけども、個人的に言いますと、その時期というのは1回しかないんです。その1回を、やはりこれから入ってくる子たちのほうがいいとかじゃなくて、そのすべての人が満足できて、もちろんいろんな問題出てくると思うんですけども、それをつくり上げていくには、やはり事前に地域の方とお話、専門家とお話、役所の考えをお伝えし、そしてまたそのお答えをもらって、また役所で議論して、地域の方とも議論してつくり上げていくというのが僕は普通だと思うんですよ。その部分が全く抜けているというのは、すごく気になります。

それと、山内、隅田、兵庫の幼稚園を統合して実現できなかったのが幼保一元化。これは全く理解できないですね。幼稚園統合できなかったから幼保一元やったら統合できるんですか。最初にお話しに行って、理解を得られなかったのが統合、実現できなかった。そ

れでしたら、最初に決めてしまったら統合できるんじゃないかというような、発想が逆転しているように思えてなりません。

もう一つ思うのは、これを参事にお話ししてもちょっとわからないんですけども、お聞きするのはちょっと間違いと思うんですけども、申しわけないです。幼稚園は文部科学省が所轄されているので、これは教育委員会になるんですかね。その辺は、なぜ理解が得られなかったのか。なぜそれを途中でやめてしまったのかということも少しお聞かせ願えれば、よろしいですか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）議員おただしのように、山内、隅田、兵庫、やはり人数は、園児は大変少ないので、やはり教育ができないと。やはり人数的なものが要りますので、そういうことでいろいろ取り組みを進めておりました。すべて向こうから反対があったからやめたというのではなしに、そういうしているときに、この幼保一元化という、そういう制度ができて、その話がそういうふうになったわけでございます。

○議長（中上良隆君）1番 岡議員にお伝えします。ちょっと通告より外れかけてますので修正してください。

○1番（岡 弘悟君）外れましたね。初心が。申しわけないです。質問内容がずれてしまって申しわけないです。

ということは、途中で幼保一元化の話が出てきて、幼保一元化のほうを進めていくというお話になったということですね。その辺はあれなんですけども、僕が言いたかったのは、話、元に戻します。申しわけないです。もう少し時間を持って計画を進めていってもらいたいというのと、この期間を定めているというの、もちろん市が定めたものなんですから、やはりそれまでのタイムリミットという

時間の内容はわかっているのですが、もう少し早く進めていてもらいたいですね。もちろん地域の方もいろんな声で新しい保育園・幼稚園、幼保一元化施設、望まれている方もいらっしゃるんですけども、その中で地域の方とお話をして、このデッドラインというのをどうにか動かしていくのも一つの手ではないか。もちろん早期実現でやっていかれるのか、地域の方がちょっと反対されて、もう少し議論が必要だというのであれば、もう少し議論を持っていく時間をとっていただきたいというのは、これは要望です。

次、3番目なんですけども、これちょっと僕、答弁のほうであまり、ちょっとわからなかったんですけども、僕が言いたいのは、もう本当に選択肢がなくなってしまうということなんです。連携がとれるから、とれないからとかいうのではなくて、利用者側から見て選択肢が全くなくなってしまうということについてどうお考えですかという意図なので、ちょっともう少しその辺、詳しくお聞かせください。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）今現在、高野口のこども園にとりあえず周知をしております。高野口こども園につきましては、21年4月開園をめざしてやっておるわけですけども……。

○議長（中上良隆君）参事、もう少しマイク近づけて話してください。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）やっておるわけですけども、やはり検証もしていかなければなりませんし、検証、評価ですね。こども園の評価もしながら、隅田こども園という形で一步一步進めていく必要がございます。

隅田こども園につきましても、まだ住民の意見、あるいは保護者の方々の意見を聞く時

間は十分あると考えております。そういうことで精いっぱい聞かせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）そのお話は先ほどのお話で、次なんですけども、3番です。利用者が選択肢がなくなるというのをどうお考えなのかということなんですけども、先ほど、一番最初にいただいた答弁では、先ほど、何度もお話しさせてもらってるんですけど、内容はわかっているんです。ただ、利用者の選択肢がなくなる。本当にもう簡単に、利用者の選択肢がなくなってしまうんですよ、このままでは。幼保一元化全部すべてそうなれば。それについてどういうふうにお考えですかということなんです。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）一次計画では五つの中学校区に一つという計画を持っておりますけれども、二次計画につきましては、残っている部分がございます。一次計画終了時点で、終了時点といいますか終了に近づきました時点で、検証しながら二次計画を立ててまいりますので、選択肢の問題とかそれからいろんな問題が出てくると思ひます。そういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）二次計画でのお話で考えていかれると。では、なぜ一次計画では考えられないのでしょうか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）一次計画でなぜ考えないかということなんですけれども、一次計画で、計画立案にあたっては十分施設形態、そしてその施設ごとの保育内容はどうかという議論をもって検討をいたしました。その結果、こども園という施設そのもの

につきましては、幼稚園機能、保育園機能をあわせ持っております。あわせて子育て支援機能、これも在宅児あるいは地域の養育力が弱いという中で、将来の課題だなどということでは私たちは考えておりましたけれども、それもあわせもった施設が可能になる。そういうことで、単独施設は将来的に公立の部分についてはなくなるかもわかりませんが、それにかわって認定こども園では十分その機能を補完できる、あるいはさらに発展できるという認識を持ってこども園を選択しておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）それは十分説明会でもお話聞いたので、その辺は僕も十分理解しているつもりなんですけども、ただ僕が言うてるのは、両方の部分を持っているから、その選択肢がなくなっても問題ないというようなお話にとれてしまうんですけども、そうではなくて、二元型がいい方もいらっしゃる。一元型がいい方もいらっしゃる。

つまり、一元型というのは、これから新しい時代を見据えて、これから、小さいときから小学校までの間を一元して、同じ施設の中でやっていくということで、二元型とは全く形態が異なるわけで、その形態が全く異なる二元型と一元型、利用者はその中で、一元型がいいのか二元型がいいのかを、今は現在選べますよね。今現在は選べますよね。なのに、選択肢がなくなってしまうということに関して、それについてはどうお考えなのですかということで、幼保一元の内容がいいとか悪いとかではなくて、利用者がこれから選んでいられる権利ですか、またお話戻して悪いんですけども、先ほども紹介させていただきましたけども、第三の選択肢として生まれたものだと思うんです、橋本市においては。幼保一元化施設というのは、既存のものとプラス幼

保一元化施設。そのバランスというのは、これから幼保一元化施設のほうが多くなるかもしれないけども、選択肢は多いほうが良いということで始められた事業やのに、それがいつの間にかすり替わって選択肢がなくなってしまうというのについてどうお考えですかと、ちょっとお聞きしたかったんですけども。よろしくをお願いします。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）幼保一元化の良さについてはわかっていたかと思うんですけども、内容についてはわかっていたかと思うんですけども、確かに、選択肢がなくなるという部分もありますけれども、それ以上にやはりメリットといたしまして、同じ小学校に就学する児童の仲間づくり、あるいは親子の交流ということでスムーズに小学校のほうにつなげていけるということで、市といたしましては幼保一元化を選択したという、こういうことになりますので、市がそういうメリットのほうを優先して選択させていただきましたので、ご理解のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中上良隆君）1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君）少し、ちょっと違うような気がするんですけども。押し問答になるので、時間もないので次に行かせてもらいます。

あと4番、地域における乳幼児のバランスを図るということで、今の計画が出されているとのお話、答弁でしたけども、これが現状多いところに合わされているというふうなお話でとれたんですけども、これが本当にバランスを考えたことになるんですかね。じゃあほかの地域、今現在多い地域が、必ずしもこれからずっと子どもさんの数が多い地域になれるんですかね。その基準というのが、僕はあまりにもあいまい過ぎると思うんです。

今の基準に合わせて、将来の基準には合わせてない。すべて加味した上でここになりましたというお話ならばわかるんですけども、現状多いからじゃあここにしようというようなバランスのはかり方で、その地域格差をなくしていくというふうにつながっていくのかどうか。それについてもう少し詳しく、答弁よろしくをお願いします。

○議長（中上良隆君） 幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君） 統廃合を考えるときにまず考えましたのは、今現在ある保育所、幼稚園、どういう位置にあるのかなど。子どもの園児数、幼稚園の園児数、保育所の園児数、そして将来、人口推計どうなるのかなどいうのを推計いたしました。それと小学校・中学校、乳幼児は小学校からずっと中学校と続いていきますので、その連携というのを、この三つを基本にずっと考えてまいりました。

確かに地域的には、この地域は子どもの数が多いなという地域もございますけれども、やはり小学校、中学校という学校区というのを一つのかたまりにといいますか、くくりと考えると、統廃合をする場合の一応の基本といたしましては、小さい園が廃止をし、大きい園へ集約するという、施設の統廃合をする場合の基本だと思ってるんですけども、そんな考え方でずっと組み立てました。

そうする中で、中学校区に1個というのが結果として、あるいはこういうふうに、内容として一番、今後の子どもの子育ても含めて、一番現実的でないのかなという、こういうことで考えております。したがって、その中学校区によりまして子どもの数は、その違いはございます。その点はあるわけですけども、基本的にはそういうことで計画を練りましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中上良隆君） 1番 岡君。

○1番（岡 弘悟君） その基準というか、その趣旨は大変よくわかります。ですけど、もう少し、配置等を含めて地域の方と議論を持つ場を持って、場を持って話を進めていただきたい。それがどうしても、その市の考えというのが必ずしもいいか悪いかはわからないですけども、その意図が全く地域の方に伝わっていません。その内容についても、私個人ですけども伝わってこないです。やはり、もう少し説明というものを重きに置いて事を進めていただきたいと思います。

5番なんですけども、最後の質問なんですけども、これはもちろん財政問題、少子化問題、第一にこれが念頭に上がってきて、この幼保一元化計画というのがもちろん持ち上がっているんですけども、ただ、それが一つの起因であって、それが始まってしまったら、ちょっと言葉は悪いですね、申しわけない。幼保一元化を進める原因の一つ、一番最初の問題として少子化問題、財政問題、そこから始まった。もちろんそうだと思います。

で、それが始まって、じゃあいざ今度動き出してつくろうとする場になったときには、少子化問題、財政問題というのを、やからこれをやっていかなければならないんやというのを、いつも第一念頭に置いてこういったものをつくり上げて行って、本当にいいものができるのかどうか。原因が、その第一歩がそうだったとしても、これから子どもたちのため、これからその子どもさんを見守って行かれる親御さんのためを考えて、いや、形を変えてつくっていかなければならないものだという意識を変えて進めていっていらっしゃるのであれば、僕はいいと思ひますけども、どうも財政問題、少子化問題を絶えず念頭に置かれて事が進んでいっているように思ひます。発想の転換なんですけどもね。これか

らもちろんこういった問題増えていくと思うんです。少子化に歯どめをかけるかと言われるたら難しい問題やと思うし、個人の問題にもなってきますし。

ただ、これから橋本市で少子化問題、もちろん財政問題取り組んでおられると思うんですけども、少子化問題に取り組んでいく上で、このこども園というのを一つの少子化問題に対する起爆剤にできないのかなと思うんです。つまり、もちろんすべてをこども園にしるというてるんじゃないですよ、僕はここで。そのこども園というのをつくるのであれば、もちろん他府県にない、特色のあるものをめざしてはと思うんです。それを使って橋本市にはこんないい施設があるんやからほかの市からも、県からも移り住んで、住んでいただけるようないいものをつくり上げていくと。そういったことを念頭に置いて進めていってもらいたいと思います。

そしてその中で、やはり説明会でよく聞くのが、僕、議員の全員協議会のときにも、協議会じゃない、6月4日のときでもお話聞いたのは、少子化問題、財政問題が取りざたされていましたが、もちろんそれはわかるんですけども、これからの子どもたちのことを考えて、そして、いいものをつくっていくには、考えを少し変えて、見方を変えて進めていってもらえたらいいなと思うんですけども、実際言葉過ぎて、財政問題、少子化問題を第一に考えてはるんじゃないのかと勝手に決めつけてしまいましたけども、その辺は少しお許しいただきたいんですけども、僕個人的に、これからいいものをつくるにあたっては、そういったことを中心に考えるのではなくて、本当に子どもたちのこと、関係者の方のことを考えてつくっていただきたい。そして、そのためには、もう少し時間をとって、ゆっくりと議論して前に進めていってもらい

たい計画だと思います。

以上です。

○議長（中上良隆君）答弁は。

○1番（岡 弘悟君）もう結構です。

○議長（中上良隆君）これをもって、1番 岡君の一般質問は終わりました。

10時40分まで休憩いたします。

（午前10時25分 休憩）